

三番瀬の深浅測量の結果について

1. 調査目的

この調査は、三番瀬再生計画に基づく三番瀬自然環境調査の一環であり、三番瀬海域の海底地形の現状を調査し、他の調査結果と併せて三番瀬の自然環境の変化を把握することを目的とするもの。

2. 調査内容

平成24年2月に、GPS測位装置及び音響測深機を使用し、側線間隔100mで船上からの測量を行った。

前回調査（平成21年2～3月）と同じ手法、範囲としたが、干出域については、より正確に形状を把握するため、側線間隔を50mとした。

測量の結果を前回調査と比較して、地形の変化を調査した。

3. 調査結果の概要

前回平成21年2～3月に実施した調査結果と比べて、三番瀬海域（水深5m以浅）では、水深が平均27cm深くなり、水深0m以浅（A.P.）の面積も46%に縮小したことが判明した。

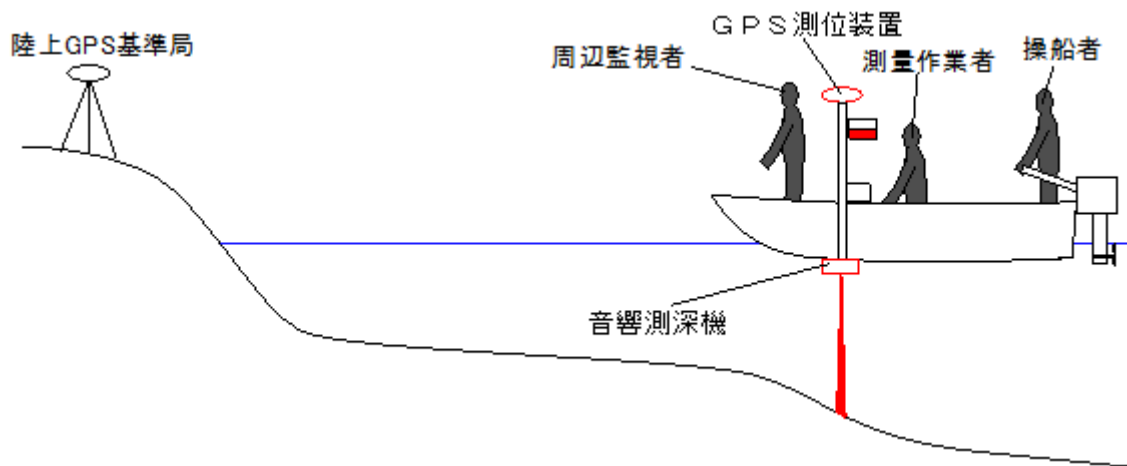
調査した全域で水深が深くなっており、東日本大震災の影響が示唆された。

※A.P.：使用した水深の基準、Arakawa peilの略で、荒川工事基準面をいう。

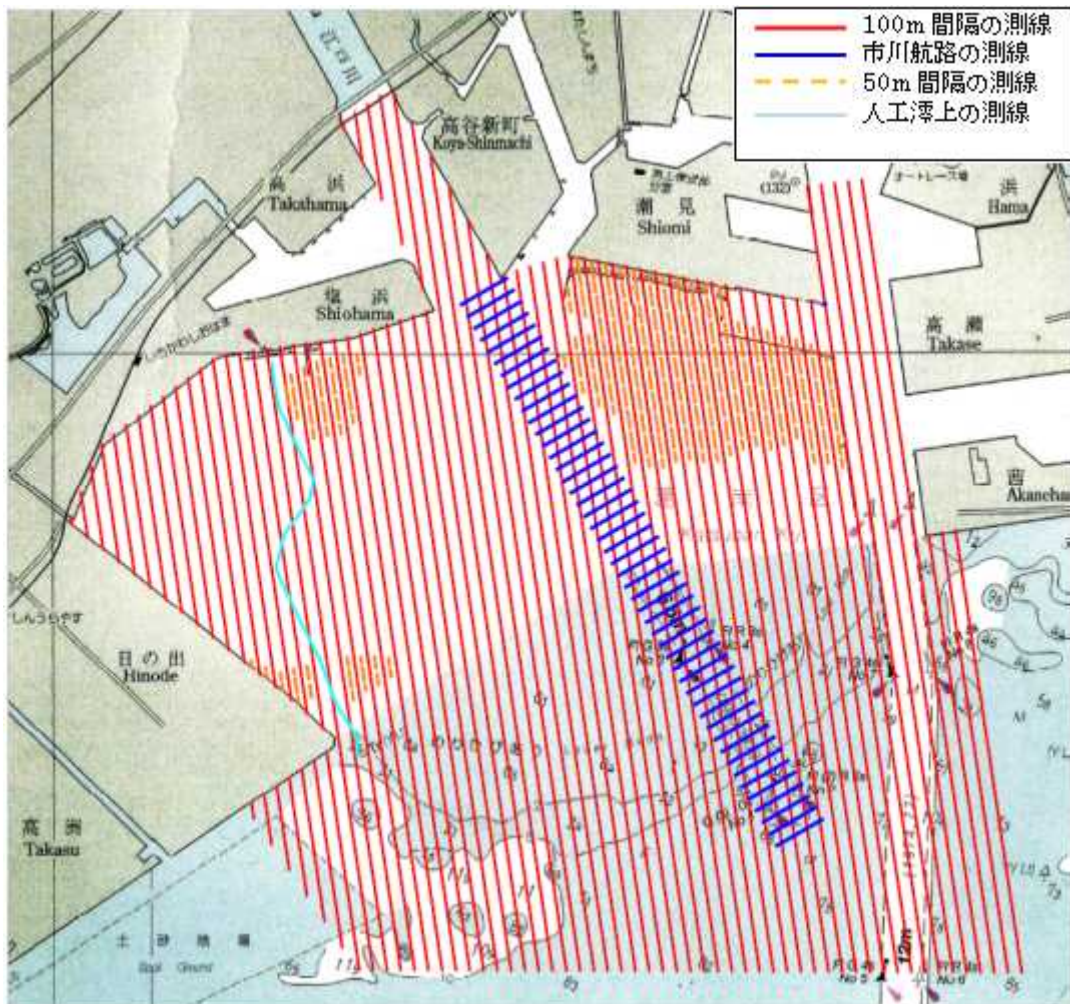
4. 調査結果の活用

調査結果については、鳥類や海生生物の三番瀬での生息状況の変化を把握するための三番瀬自然環境調査の基礎資料として活用するとともに、関係機関等に提供し、三番瀬再生事業の推進に役立てる。

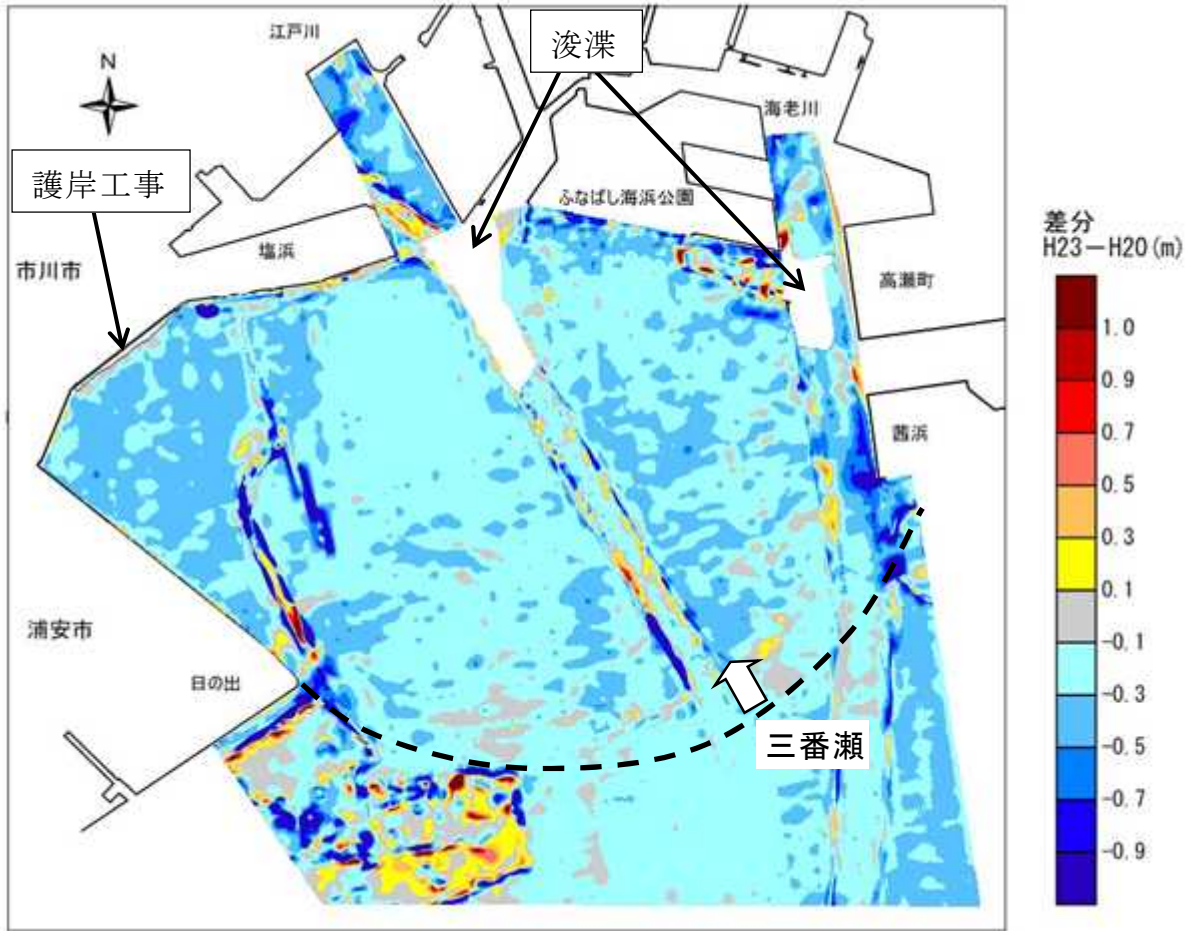
深浅測量作業図



深浅測量測線図



水深差分図（平成21年2～3月調査結果と比較した水深の変化）

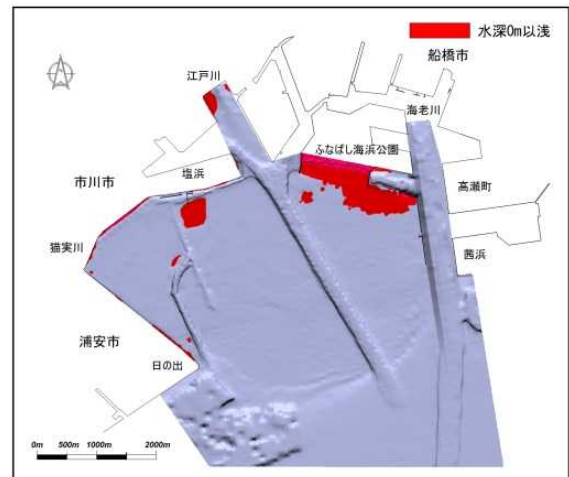
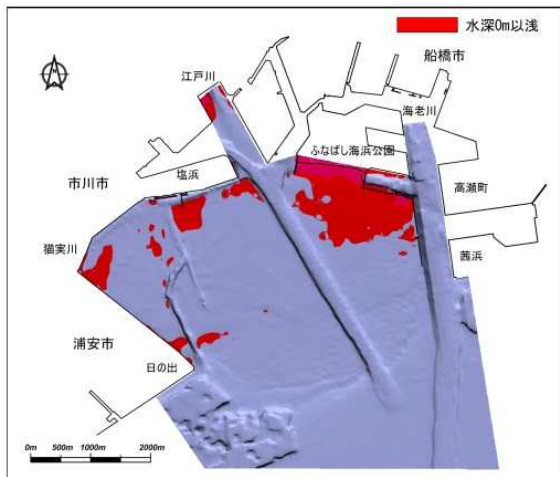


※護岸工事や浚渫など、人為的な要因による水深変化部分は除いている。

水深0m以浅（A.P.）の面積図

平成21年

平成24年



年度	面積(k m ²)
H20	2.69
H23	1.23
H23/H20	46(%)